

開成の杜

第88号 ●2012年6月8日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) http://www.koriyama-kgc.ac.jp ●発行人／学園長 関口 修



学園の春

(撮影 山口郁生)



理事長・学園長
関口 修

四囲からの教えに

今年の立夏はことその他、山々の残雪が多いことに驚かされている。例年なれば、田圃に水がはられ、勢いの良い苗が植え付けられて豊作への期待が高まる季節である。

昨年、今年も水田は手入れが続けられている。田圃は、一年間休耕すると元に戻るのに十年の歳月を要すると聞かされている。田圃は人々の努力の積み重ねにより営々と受け継がれてきた日本人の魂のような存在ではなからうかと思えてならない。

米国コロンビア大学教授で東日本大震災後に日本に帰化されたドナルド・キーン博士がNHKのテレビ出演され、日本人の特性を挙げ算黙に努力することや秩序ある我慢強さを称賛されていた。

福島県に生活の拠点を置くものにとつて、放射線の被害で日本人の宝とする御米が食べられなくとも田圃に水を張り田圃をしようとする人々の営みには、我慢の限界をはるかに超えているであろう事を思うと、一粒の御米にも感謝の気持ちが湧いてくるし、田圃を守る努力に、深甚なる敬意を表さなければならぬであろう。

厳冬の季節を送り、立夏ともなれば青葉若葉の季節であるが、去年見た桜は心なしか寂しげであった。今年の桜は、何となく心を和ましてくれた想いがするのは

私だけではなさそうである。この一年間に变化した心境は何を意味するのであろうか。安全性に関する基準が定着したことによるのかも思うし、また一方、狎れであったとすれば警鐘を鳴らす必要があろう。昨今の今頃は放射線の安全基準が彼是と取り沙汰されていたが、あの時示された高い基準はどのような医学的根拠があつたのかであつたのだろうか。そして、今の安全基準はどうして低いのだろうかと思うと、低い基準にさえ疑問が生まれてしまう。疑問が疑念を呼びさまし、更なる不安を増幅する愚かさは避けなければならないが信頼を回復して心穏やかな日々にするには、着実な努力の積み重ねによる学術の継続によらなければならないであろう。田圃を大切に守ってきたことと同様に、若い学生生徒の皆さんが学術という田圃を耕す努力を継続し、安全という宝を豊作にして欲しいと願うや切なるものがある。

原子力発電は本当に安全な発電装置なのであろうかと考える時、構造的な安全性に関する科学的な根拠への信頼度が問われるであろうが、宇宙と一部の地球の変化を冷静に問いかけると、地球は過去百年間に大きく変化していることが窺える。便利を求めるよりも田圃を耕す努力のように着実な方法に活路を求めたい。学術は日進月歩だが、それを扱う人間の精神は、それを扱うだけの成長があるのだろうか。先ずは自分に問いかけてみる。

学園創立六十六周年を祝う 学園のさらなる発展と充実をはかる

桜が満開となった四月二十二日、学園は創立六十六周年を迎え、厳かに記念式典が行われた。大学、短大、高校生、それに教職員合わせて千八百人が臨んだ。

関口修学園長は、「現在の地は先人が原野を開拓した地である。そこに礎を定めた本学園が六十六年の歴史を刻むことができたことは、責任者として大変喜ばしい限りであり、多くの人々、社会のご協力に感謝をしなければならぬ。我々一同は建学の精神である尊敬・責任・自由をもとに、学んだ知識を磨き、社会の発展に寄与し、福島県・日本・世界に貢献する人材育成に学園全体で取り組まなければならない」と述べた。

式典は後半、全教職員が登場し、開成学園オーケストラの演奏で、「吾子よ 健やかに 晴れやかに」と若者賛歌「吾子よ」を歌い上げた。これに対し応答歌「青春の確かさを今」を学生側が歌い、最後は教師と学生が声を合わせての大合唱となった。



第66回創立記念日



「若者賛歌」を合唱する教職員一同

本年度第一回教養講座は、創立六十六周年記念式典の後、建学記念講堂で開催された。

講師は作家・環境保護活動家のC.Wニコル氏。「心に木を植える」と題して講演した。



豊かで美しい日本の自然を守ろうと講演するC.Wニコルさん

難関の社会福祉士に二名が合格 大学・人間生活学科福祉コース

人間生活学科福祉コースでは、今年春社会福祉士国家試験に二名が合格した。全国平均26%と、ここ十数年で最も厳しい合格率の中、県内の養成校ではトップの成績であった。社会福祉士は相談援助の専門職で、多様な福祉課題を抱えている相談者に対し、社会福祉施設、地域包

永年勤続者を表彰

記念式典の席上、永年勤続者の表彰が行われ、十六名に、関口修理事長から表彰状と金一封が贈られた。表彰を受けて短大・幼児教育学科の鈴木祥子講師が謝辞を述べ、更なる学園の発展に尽くすことを誓った。

表彰者は次の通り。(敬称略)

- 【勤続四十年】
 - ▲短大／鈴木 祥子
- 【勤続三十年】
 - ▲大学／菊池 節子
 - ▲短大／太宰 待子 水野 時子
 - ▲高校／佐々木 貞子 佐々木 淑子
- 【勤続二十年】

合格率が飛躍的に上昇 管理栄養士国家試験合格率76%

平成二十四年五月七日に厚生労働省から第二十六回管理栄養士国家試験の合格発表があった。家政学部食物栄養学科の平成二十三年度の新卒業者の合格率は76.6%だった。近年の本学科新卒業者の合格率は、第二十二回49.4%、第二十三回47.7%、第二十四回48.7%と50%弱の数値を重ねてきたが、昨年の第二十五回(追加試験分を含む)は55.0%と上昇の兆しが見られ、今年さら



表彰された皆さん

に大きく飛躍した。

食物栄養学科では、合格率の向上を目指して、試験対策の特別授業に加えて、休み期間中にも特別講座を開催し、重点領域の強化を図ってきた。また一昨年から、マークシートの自動読み取り装置を導入し、模試を繰り返して行うためのシステムを整え、昨年から早朝に登校してそのついで自習を行う強化クラスの実施など、学生が全員で最後まで頑張れる体制を整備してきた。このことが成績の伸びと合格率の向上につながったものと考えている。新四年生は就職活動でもがんばり、就職内定率は96%に達し、その職種も病院六名、学校栄養士二名、委託給食会社二十二名など、管理栄養士の専門性を活かしたものが多かった。食物栄養学科では、さらに合格者数を増やすよう学生と教員が一致協力して頑張っていく所存だ。



食物栄養学科朝の会

平成23年度 附属高校進路先一覧 平成24年3月31日現在(在籍191名)

◎郡山女子大学

進路先	人数
郡山女子大学 家政学部人間生活学科 福祉コース	2
郡山女子大学 家政学部人間生活学科 建築デザインコース	2
郡山女子大学 家政学部食物栄養学科	1

◎他大学

進路先	所在地	区分	人数
東京藝術大学 音楽学部声楽学科	東京都	一般	1
武蔵野音楽大学 音楽学部器楽学科ピアノ専攻	東京都	指定	1
いわき明星大学 人文学部心理学	福島県	指定校	2
相模女子大学 学芸学部日本語学部日本文学科	神奈川県	指定校	1
新潟医療福祉大学 医療技術学部義肢装具自立支援学科	新潟県	AO	1
日本大学 工学部情報学科	福島県	指定校	1
日本大学 工学部建築学科	福島県	指定校	1
日本大学 工学部生命応用学科	福島県	AO	1
実践女子大学 文学部国文学科	東京都	指定校	1
実践女子大学 人間社会学部	東京都	AO	1
東北文化学園大学 医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法専攻	宮城県	AO	1
東京女子体育大学 体育学部	東京都	スポーツ推薦	1
日本女子体育大学 体育学部体育学科スポーツコーチング専攻	東京都	スポーツ推薦	1
大東文化大学 国際関係学部国際文化学科	東京都	推薦	1
目白大学 保健医療学部理学療法学科	東京都	AO	1
群馬バース大学 保健科学部看護学科	群馬県	指定	1
文京学院大学 人間学部心理学	埼玉県	特別AO	1
立正大学 社会福祉学部子ども教育福祉学科	埼玉県	指定	1
東北文教大学 人間生活学部子ども教育学科	山形県	推薦	1
和洋女子大学 人文学部日本文学・文化学科書道コース	東京都	AO	1
洗足学園音楽大学 音楽学部ピアノコース	東京都	AO	1
東京音楽大学 音楽科声楽演奏家コース	東京都	一般	1
埼玉学園大学 人間学部子ども発達学科子ども保育コース	埼玉県	指定校	1

◎郡山女子大学短期大学部

進路先	人数
郡山女子大学短期大学部 家政科福祉情報専攻	7
郡山女子大学短期大学部 家政科食物栄養専攻	7
郡山女子大学短期大学部 幼児教育学科	12
郡山女子大学短期大学部 生活芸術科	5
郡山女子大学短期大学部 音楽科	6
郡山女子大学短期大学部 文化学科	6

◎他短期大学

進路先	所在地	区分	人数
福島学院大学短期大学部 保育科第二部	福島県	一般	1
福島学院大学短期大学部 保育科第一部	福島県	AO	1
山野美容芸術短期大学 美容デザイン専攻	東京都	指定	1
桜の聖母短期大学 キャリア教育科	福島県	指定	1
関西外国語短期大学 英米語学科	大阪府	推薦	1
福島学院大学短期大学部 食物栄養科	福島県	推薦	1

平成23年度、本校卒業生の進路決定率は、約92%(176人/191人中)にとどまり、目標の100%に届かず残念であった。その内訳は、進学が7割で、就職が2割であり、本学に48人の合格を始め、東京芸術大学音楽学部音楽科に現役で合格した。

薦入試を中心とした受験方法による進学者が多い状況にある。今後の課題としては、上級学校へ進学した後のことを考えて、高校時代に身につけるべき学力の定着を図り、問題解決能力を育成する必要がある。現在、本校ではそれらに対応するため、学力向上・キャリア教育などのプロジェクトが始動している。

就職に関しては、東日本大震災の影響を懸念したが、就職支援員の協力も得て、例年以上の合格者を出し、安堵している。今年度もすべての生徒の進路が決定できるよう、全教職員が一層協力して取り組んでいく。

平成23年度 附属高校における進路状況について

郡山女子大学図書館を紹介

郡山女子大学図書館は、一九六六(昭和四十一年)年に竣工した。二〇〇五(平成十七)年に耐震補強工事が実施された。本学の敷地の中で開成山大神宮および開成山公園にもっとも近い、自然が豊かで静かな場所に建っている。

現在、蔵書数は図書、製本雑誌、その他を合わせて約十二万冊、購読雑誌が和雑誌百四十五タイトル、洋雑誌十タイトル、購読新聞が日本語紙六タイトル、英字紙一タイトル、商用データベース三種、電子ジャーナル二種、その他の資料を購読、所蔵している。平成二十三年度は東日本大震災で罹災し、復旧のため四月から五月の連休明けまで閉館した。

五月以降部分開館を経て、八月末より常態に復帰したが、入館者が40%減(二七八九人→七〇七五人)、貸出冊数が25%減(三五九八冊→二六九四冊)と大幅な減少を記録した。

今後は学生の利用者増、特に何度も図書館を利用してもらえるリピーターの確保が喫緊の課題である。恵まれた自然環境の下、居心地の良い学習空間と良質な資料を提供することにより、学生が利用したくなる図書館の整備に努めていく。

また、平成二十四年度より「学生友の会(仮称)」を発足させ、学生の意見を図書館運営に反映させる仕組みを整備していく考えである。

杜のなかで

コラム

コブラグを抜くこと

周知のように、関西電力(以下関電)大飯原発3、4号機をめぐり、政府は四月十三日、関係閣僚会合で安全性を最終確認し、再稼働が妥当だと判断した。つまり、安全性が確認されたので、原発を再稼働させ、電力不足を解消するということである。

しかし、この政策判断の根拠について、疑問が提起されている。安全性について次のような疑問がある。①再稼働の条件としたストレステスト一次評価(原発の余裕度の確認)だけでは不十分で、二次評価(過酷事故(想定を超える事故)時の対策の有効性の確認)も合わせた総合評価とすべきである。②再稼働の暫定基準(暫定的な安全基準)は過酷事故の予防対策に偏り、起きた時の事故対策が不備である。③安全対策や基準は福島原発事故の検証を踏まえたものでなければならぬ。しかし事故の調査と検証は終了していない。電力不足については、電力九社が四月二十三日、原発が稼働しない場合の夏の電力需給見通しを公表し、そのなかで、二〇一〇年並の猛暑の場合、関電がマイナス16.3%と最も不足することが示された。しかし電力会社の見通しに疑問の声も多く、早速、政府の需給検証委員会から関電に対して、節電見込が低いとして、約40

%の上積みを求める案が出された。

地元の世論も厳しい。福井県と近畿地方(二府四県)で、朝日新聞が行った世論調査(四月二十一日〜二十二日)によると、大飯原発の再稼働について、いずれにおいても反対が賛成を上回り、反対の理由は「安全でないから」が最も多く、福井67%、近畿61%であった。政府の安全基準について、福井の63%が「信頼しない」と回答した。電力不足になるという政府と関電の説明についても、57%が「信用しない」と答えた。「節電や計画的停電が必要になってもよいか」の問いには、「なくてもよい」が77%に達した。

政府の政策判断は、その根拠とした安全性と電力不足のいずれもが疑念をもたれ、正当性を喪失している。その原因は、今も十六万人の避難者をもつ福島原発事故の重さを判断の基軸としなかつたことにある。もう一つ、原発に頼らず、節電や計画的停電になってもよい、と77%の人が答えたことに注目したい。今日、電力に過度に依存する生活スタイルが全般化するなかで、それは、贅沢な電力消費を見直し、質素で現代的であるが手作りの生活スタイルへの転換可能性を示唆してはいないだろうか。このような転換を、イーライチは「コブラグを抜く」と呼ぶが、もしこの未来志向的な生活スタイルが広がるならば、現在の巨大な電力需要は大幅に減少し、原発の不安と電力不足の問題はともに、解決への展望をもつことにはなれないかと考えるのである。(彌)

特集 研修紀行

大学・短期大学部

【パリの石造建築文化に触れて】

人間生活学科四年 長瀬 柚香里

パリへの研修は日本と異なつた石造建築文化に触れる絶好の機会でした。研修先のノートルダム寺院、ルーブル美術館、ヴェルサイユ宮殿、サヴォア邸等はいずれも建築デザインコースの授業で学んだ建築でした。特に印象的だったのはノートルダム寺院で、授業の内容を反芻しながら構造美の雄大さに圧倒され、パライ窓を見上げました。サヴォア邸では近代建築の合理性を目の当たりにし、今後この設計手法を日本の住宅設計に応用したいと考えました。



パリの老人福祉施設視察

この研修を支援してくださつた学園と両親に感謝いたします。

【奈良・京都への研修旅行を終えて】

生活芸術科二年 本田 理沙

二月の下旬、福島ではまだ冬の寒さが続く中、私たち生活芸術科十五名は、梅の蕾がほころびはじめた古都奈良、京都へ三泊四日の研修旅行へ行つてまいりました。現代的、歴史的な文化が共存し、風情ある町並み、神社仏閣を写真ではなく実際に見ることに、これまで学習してきた知識を深め、また自身の美的感覚をさらに高めることができました。

【海外研修旅行に参加して】

音楽科二年 斎藤 美希

私たちは三月二十一日から三月二十七日の七日間、オーストリアへ研修旅行に行き、本場の音楽や文化に触れてきました。現地では、ミラベル宮殿やメンヒスベルクの丘といった、あの有名な映画「サウンド・オブ・ミュージック」の舞台となった場所を見学したり、私たちが現在勉強しているモーツァルトの生家やベートーヴェンの貴重な品々を見ることができました。また、オペラ座ではその裏側を見学したり、実際のオペラ鑑賞をするなど、感性を磨く貴重な経験をすることができました。



法隆寺前で

【奈良・京都研修旅行】

文化学科二年 滝田 理絵

二月二十日から二十四日までの五日間、文化学科二年十九名は奈良・京都研修を行いました。研修の目的は、日本文化の基幹ともいえる奈良・京都の神社仏閣史跡博物館を直接見学することでした。私たちにっては、震災の影響でもみじ会などの大きな行事が中止になり、クラス全体での行事はこの研修が初めてでした。



ベートーヴェン遺書の家にて

大学と短大は、今年も、海外と国内で各学科の特徴を生かした研修旅行を行った。学んだ新しい知識や世界観は、これからの学習に大いに役立つことだろう。

研修旅行でのいっばんの思い出は、今まで話す機会がなかった友達と話すことができただけです。班行動、団体での施設見学やホテルでの食事の時間などを通して、クラスの皆との距離が縮まったような気がした五日間でした。二年という短い期間しかこのクラスとして過ごすことはできないので、今回の研修旅行では大変貴重な体験ができました。



京都御所の前で

【大切なものを学び、実感できた二泊三日】

家政科福祉情報専攻二年 芳賀 美咲

私たちは、二泊三日の関西方面への研修旅行で、日頃の生活からは学べない大切なものを学び、実感することができました。一日目の神戸の北野異人館散策では、風見鶏の館をはじめとする建造物から伝わる歴史を感じるとともに、神戸の街の新鮮さが伝わってきました。

同じく一日目に行つた「人と防災未来センター」では、十七年前に起こつた阪神淡路大震災のCG映像を見て、地震のすさまじさを感じました。家が破壊され、街が跡形もなくなつた場面は、東日本大震災の時のものと重なり、とても胸が痛みました。しかし、多くの人が助け合いながら街を復興させていく姿を写真で見た時、東北も復興へ一歩ずつ進んでいくことを改めて実感しました。そして、いつか必ず東北も復興できるという希望を持つことができました。



宇治平等院の前で

二百九十二人が入学 大学・短大・専攻科

郡山女子大学第四十七回、郡山女子大学短期大学部第六十三回、短期大学専攻科第十三回の入学式が四月六日、建学記念講堂で行われ、二百九十二人が新たな第一歩を踏み出した。

入学したのは大学四十八人、短期大学部二百四十一人、専攻科三人。一人ひとりの名前が呼ばれ、関口修学長が入学を許可し「入学おめでとう。保護者や関係者に感謝し尊敬責任、自由の建学の精神にのっとり、専門性を高め、社会の発展に寄与す

ることを願う」と告辞を述べた。

来賓の明珍賢司家族会長、名倉美恵子郡山女子大学同窓会長が挨拶し入学を祝った。続いて附属高校三年の田嶋和香菜さん、附属幼稚園の山尾月乃ちゃん、小野寺和希ちゃんがお祝いの言葉を述べた。さらに在学を代表して大学食物栄養学科四年の本間奈奈さんが歓迎の言葉を送った。

これに対して新入生を代表して短大・文化学科の関根唯さんが「本学の学生としての自覚と誇りを持

ち、これからの社会へ貢献できる人間へと成長することを誓います」と述べた。

新しい言葉を読み上げる短大文化学科の関根唯さん

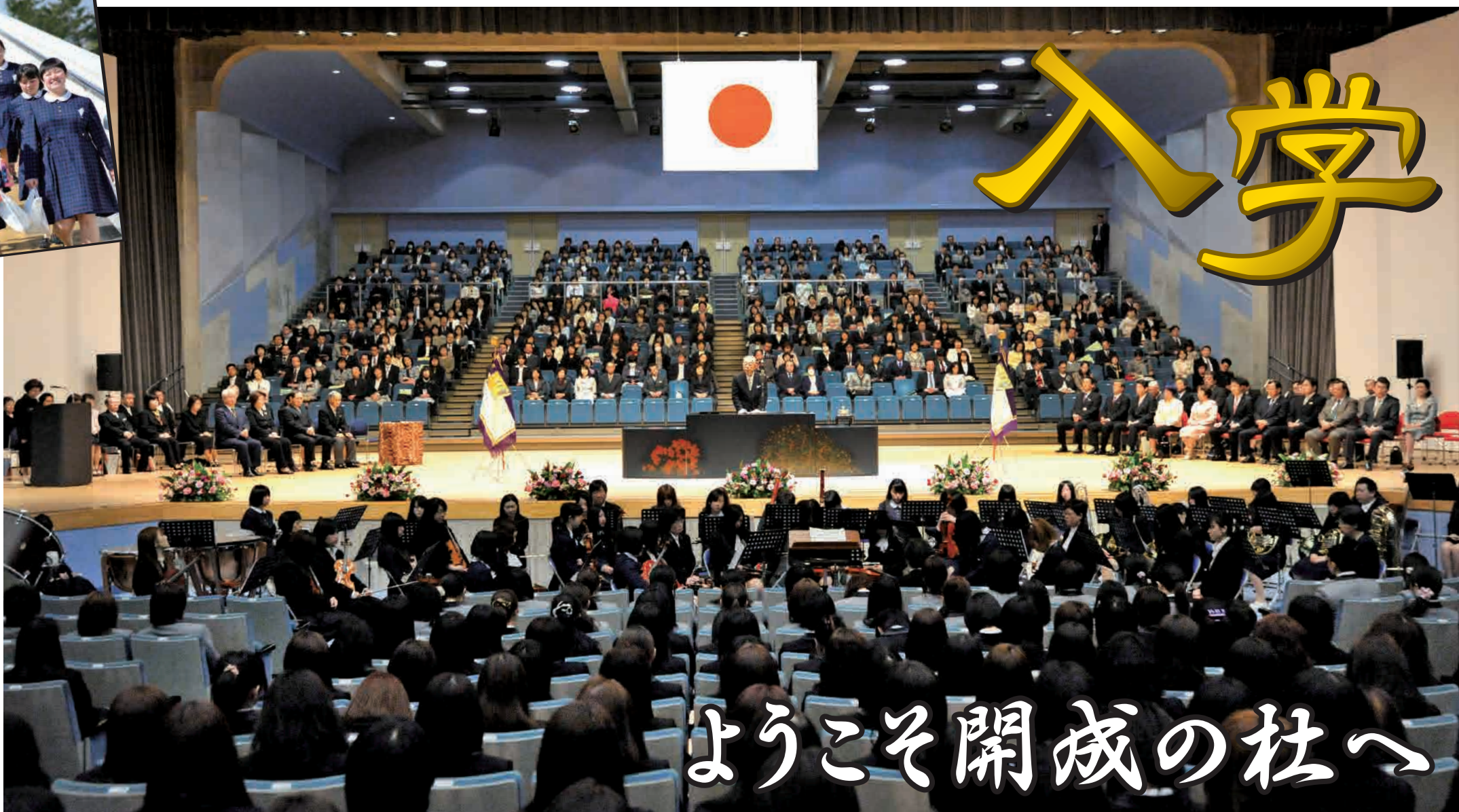
私が郡山女子大学を志願した理由

私は小さい頃から物作りやデザインを考へることが好きだったので、将来自分の好きなことを社会に活かせる職業に就きたいと思いました。

オープンキャンパスに参加して、整った環境設備そして建築デザインコースに魅力を感じ、本学を選びました。これからは、女性を考へる理想の住まいを設計するという夢実現のため、素晴らしい建学の精神のもと勉学に励みたいと思います。

大学 人間生活学科 建築デザインコース 齋藤 郁美

入学



ようこそ開成の杜へ

私が本学を志願した理由は二つあります。（一）日はふるさとである福島県にある大学で学び、四年後は県内に就職して地元へ貢献しながら食を通して多くの方の笑顔が見たいからです。

二つ目は、本学は栄養管理士を養成する専門機関であると同時に、企業との商品開発の実績もあることを知り、私も実際に参加したいと考えたからです。四年間を充実させ、夢を実現したいと思います。

短期大学部 音楽科 井上 実敏

私が附属高等学校を志願した理由

私は、附属幼稚園出身です。そして私には幼い頃から幼稚園の先生になりたいという夢があります。附属高校には、幼稚園との交流行事があるということを知り、夢の実現に向けて日々知識を深め、多くのことを学びたいと強く思い志願しました。これからの生活では、勉強と部活との両立に励むとともに、新たなことに積極的に挑戦して、自己の可能性を切り拓いて行けるように頑張りたいと思います。

附属高等学校 音楽科 大橋 眞紀



附属高等学校

学園の桜がほろびかけた四月十日、建学記念講堂において第六十三回入学式が挙行された。式は開成学園オーケストラによるワグナー作曲「歌劇ローエングリン」より「エルザの大聖堂への行列」の演奏に続いて

厳かに進められた。

新入生九十五名、普通科六十二名、音楽科四名、美術科八名、食物科二十一名は担任となる先生からの呼名に対して、晴れやかで爽やかな表情で「ハイ」と元気よく起立、関口修学長が入学を許可した。

校長告辞では、「この附属高校の建学の精神である尊敬責任・自由のもとで努力し、未来を担う人間に成長してください」と新入生を激励した。

新入生を代表して橋本莉早さん（食物科）と保護者が「先生方や先輩の教えのもと、日々の生活や部活を通して女性として、日々の生活や部活を最後までやり抜く責任感を養っていきます」と決意を新たに誓った。

附属幼稚園

入園式は四月十一日に行われた。年少組二十五人、年中組三十人、長組一人の二十九人が園児の仲間入りをした。

式はクラスごとに行われた。園児一人ひとりの名前が呼ばれ、園長先生が「お友だちをたくさんつくって、元気に遊んでください」とあいさつした。続いて年長組がお祝いの言葉と手作りのペンダントをプレゼントした。

新入園児たちは「お約束を守り、よい子になります」と大きな声で元気に誓った。

私は、附属幼稚園出身です。そして私には幼い頃から幼稚園の先生になりたいという夢があります。附属高校には、幼稚園との交流行事があるということを知り、夢の実現に向けて日々知識を深め、多くのことを学びたいと強く思い志願しました。これからの生活では、勉強と部活との両立に励むとともに、新たなことに積極的に挑戦して、自己の可能性を切り拓いて行けるように頑張りたいと思います。

附属高等学校 音楽科 大橋 眞紀



私は、附属幼稚園出身です。そして私には幼い頃から幼稚園の先生になりたいという夢があります。附属高校には、幼稚園との交流行事があるということを知り、夢の実現に向けて日々知識を深め、多くのことを学びたいと強く思い志願しました。これからの生活では、勉強と部活との両立に励むとともに、新たなことに積極的に挑戦して、自己の可能性を切り拓いて行けるように頑張りたいと思います。

附属高等学校 音楽科 大橋 眞紀

私は、附属幼稚園出身です。そして私には幼い頃から幼稚園の先生になりたいという夢があります。附属高校には、幼稚園との交流行事があるということを知り、夢の実現に向けて日々知識を深め、多くのことを学びたいと強く思い志願しました。これからの生活では、勉強と部活との両立に励むとともに、新たなことに積極的に挑戦して、自己の可能性を切り拓いて行けるように頑張りたいと思います。

附属高等学校 音楽科 大橋 眞紀

私は、附属幼稚園出身です。そして私には幼い頃から幼稚園の先生になりたいという夢があります。附属高校には、幼稚園との交流行事があるということを知り、夢の実現に向けて日々知識を深め、多くのことを学びたいと強く思い志願しました。これからの生活では、勉強と部活との両立に励むとともに、新たなことに積極的に挑戦して、自己の可能性を切り拓いて行けるように頑張りたいと思います。

附属高等学校 音楽科 大橋 眞紀

卒業

蛍の光に送られて

大学院・大学・短期大学

青く澄み渡った三月二十日、大学院第十九回、大学第四十三回、短期大学部第六十一回、短期大学部専攻科第十一回の修了式・学位授与式・卒業式が建学記念講堂で行われた。この日、立上ったのは大学院修士課程一名、大学百七十七名、短期大学部三百三十三名、短期大学部専攻科十名の計四百三十一名、関口修学長から学位記および卒業証書が各科総代に手渡された。

関口修学長は告辞として「春分の日には仲間であった故上野智美さん、故大坂由佳さんと一緒に卒業おめでとう。建学の精神である尊敬責任・自由を忘れず、専門性を高め、さら

なる飛躍をしてほしい」と告辞を述べた。

来賓の原正夫郡山市長、大内嘉明郡山市議会議員、郡山開成学園家族会明珍賢司会長の祝辞。附属高校を代表して佐藤円さん、幼稚園から大堀星恋ちゃん、小平瑞空君がそれぞれお別れの言葉を述べた。また、大学人間生活学科の大堀絵美さんが在学を代表して送辞を述べた。そして、大学院の郡司尚子さん、短大音楽科の深谷悠里絵さんが惜別の想いを述べた。

卒業生は、郡山開成学園オーケストラの演奏とともに、「仰げば尊し」を歌い上げ、「蛍の光」と全員の拍手に送られて思い深い学舎を後にした。

附属高等学校

ひな祭りの三月三日、第五十三回卒業式が建学記念講堂で行われた。式では冒頭、昨年の東日本大震災の犠牲者に黙とうをささげ、冥福を祈った。

担任から普通科百二十六名、音楽科十三名、美術科十三名、食物科三十九名、計百九十一名の名前が呼ばれ、各科総代に関口修学長から卒業証書が手渡された。

続いて賞状授与式があり、学園長賞四名、学校長賞六名、皆勤賞三十一名、精勤賞十三名が表彰された。

関口校長は「これからの多くの困難を乗り越え、より良い社会を形成する一員として活躍してください」と告辞を述べた。

在校生代表の佐藤琴乃さんの送辞を受け、古川ほかさんが答辞を述べた。

附属幼稚園

梅のつぼみがふくらみ始めた三月二十一日、附属幼稚園の第五十七回卒園式が建学記念講堂小ホールで行われた。お家の方に温かく見守られる中、四十一名の卒園児一人ひとりが園長先生から「げんきでかかると、てんまでとだけ」と書かれた卒園証書が手渡された。

また、卒園記念樹（白梅）が代表の小和田凛さんに贈られた。短大幼児教育学科の羽生有花さんが祝辞を述べた。先生方は会場を出る卒園児を拍手で送り、「幼稚園で大切にしてください。よくみるよくきく、よくかんがえて、を小学校でも思い出し、元気に頑張ってください」と願った。

卒業研究発表会

■大学院人間生活学研究科

大学院修士課程の修士論文発表会が二月八日に開催された。研究テーマは次の通り。

△福島県産エゴマの成分と利用に関する研究。

大学・短大は一月末から二月にかけて各科ごとに発表会を開催した。主な研究課題は次の通り。

自給率の現状と今後、栄養学的観点から△福島県相馬市の年中行事食とその文化的価値△女子大生食生活と貧血の関連について△コンビニスイーツのマーケティングと市場環境分析および消費者分析を中心として

■短大・家政科食物栄養専攻

△大豆の水浸漬による栄養成分の変化△国産牛肉と米国牛肉の脂質ならびに遊離アミノ酸について△食酢を使ったサワードウの嗜好性△酢とラーメンの相性について△保存方法の異なるマドレーヌの嗜好性△高血圧の原因と食事療法△カロリーを気にせず食べられるお菓子△凍み大根の新しい利用法について△凍み大根の鉄含量に関する研究△野菜を使ったおやつで野菜嫌いを改善するための工夫

大学・人間生活学科

△住宅地におけるガレージ計画に関する調査△ペットとの暮らしに関する考察△「木育」の現状と動向についての研究△ことわざからみる現在の生活スタイルへの提言△明治期における洋装の受容△色彩調和感の個人差と性格の関連△閉経期に対する理解の現状と課題△障がい者理解から生まれる住みやすい街づくり△生活保護を受けている母子家庭について△仕事と服装△介護職のユニホームについて△家庭教育と「生きる力」の関係△考察

■短大・幼児教育学科

△保育者の同僚性とその関連要因の検討△積木と絵本の制作△リズム劇「びとからのおくりもの」みんなの笑顔のために△「オレレタ」オズの魔法つかい

■短大・文化学科

△江戸城・大奥の生活！将軍に尽くした女性の姿△大田原城と城下町△笹山原遺跡ナンバ16における土師器生産について△水文化史ヨロバと日本△タロットカードの誕生イカバラから見たタロット△近世・福島県の馬頭観音信仰について△フローラの美術史△福島県喜多方市における米騒動

大学・食物栄養学科

△食物ステロールのエステル油脂代替物としての機能性△チクリの嗜好性について△農産物の放射線測定△女子大生の肥満と食習慣及び健康意識の関連について△増粘剤併用添加による米粉パンの品質改善△若年女性の鉄摂取状況について△食料

研究発表する学生

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



イラスト 悦美 佐藤

福島県の魚たち

坂上 茂

我が家の食卓に魚介類が上ることがめつたり少なくなりました。東日本大震災の後、新鮮でおいしい魚が手に入り難くなっているためです。

福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能汚染のために、福島県沿岸では漁師が出漁を自粛しています。また、隣県では食品衛生法の基準値を超え、出荷が制限されている魚種も報道されています。例年であれば、メバル、アイナメやカレイなどが県内各地の漁港で水揚げされ、これら地場産魚類が店頭を賑わせている時期です。しかし、スーパーマーケットの魚売り場には九州産アジなど聞き慣れない産地の魚やサーモンなど外国産の魚が並んでいます。特産のホッキ貝などは全く見かけません。釣りは新潟県まで魚釣りに行きます。釣りの楽しみの一つは釣り上げた新鮮な魚を食べることです。そ

のため、安心して魚を求めて日本海まで出かけるのです。福島県の魚たちは、何も知らずに網や竿が入ることがない海でのんびり生きていることでしょうか。魚体は大きく成長し、魚影は濃くなっているものと想像します。釣りの一人として、放射能の影響がなくなり、安心して竿を出せる日が早く来るよう願っています。そのときは、大物がクーラーボックスからあふれるほど釣られて、店頭には新鮮な県内産の魚介類が所狭しと並んでいることでしょうか。

(短期大学教授)



いわき市永崎浜の海

「ふくしま再興祭り 大なべプロジェクト」に参加して



大学家政学部 食物栄養学科3年 小平 未来

三月二十三日〜二十五日の三日間、『ふくしま再興祭り 大なべプロジェクト』が行われました。参加者はK I H A C H I 総料理長鈴木真雄シェフを始め、県農青クラブ、福島中央テレビの方々、そして郡山女子大学・短期大学部で活動しました。活動内容は、二十三日が実習室の清掃、二十四日は野菜の下処理、二十五日はカルチャーパーク

での大鍋調理・配膳です。山形市から直径三メートルの鍋を借り、約五〇〇杯分の鍋を作りました。食材は、会津地鶏やエゴマ豚、天栄長ねぎ、かまぼこなど、福島の産食材を使い、ピリ辛鍋を提供しました。タイトルが『チュパイシー満腹 元気鍋!』ということで、私たちは、福島県がいち早く元気になるようにと、少しお手伝いできたのかなと思います。鍋は約一時間半で完売するという人気ぶりでお客さんとてもおおいと言ってくれました。お客さんと直接接することで、表情を見たり、率直な意見を聞くことができるので、とてもやりがいのある仕事だと思いました。また、マニュアルに従い、量を均等にするなど細かいところまで決められていたため、とても大変でした。しかし、協力して行うことでやり達成感が湧き喜びを感じることができたことを知りました。今回は、下処理から販売までを行い、とても充実したよい時間を過ごすことができました。これからの実習でもこの経験を生かし、積極的に動けるようにしていきたいです。

夢への道



附属高等学校普通科 スポーツ健康系コース3年 吉田 那奈

私は今、スポーツ健康系コースの三年生として附属高校へ通わせていただいています。スポーツ健康系コースでは全員が運動部に所属し、それぞれの目標に向かって毎日の練習と学習に取り組んでいます。時にはぶつかることもありますが、私たちはそれぞれに「楽しかった思い出」に変えることができます。

中学三年生の秋、剣道部だった私は、附属高校のスポーツ健康系コースに入学して全国の舞台に立ちたいと強く思いました。全国への道は長く厳しいものですが、「附属高校の剣道部でならばこの目標を果たせるはずだ、最後まで諦めず、自分を成長させるために頑張ろう」と覚悟を決めました。幸いにも特待生として合格をいただき、三年生となった今、部長として毎日勉強と稽古に精いっぱい励んでいます。

これまで一番辛かったことは、あの三月十一日、東日本大震災です。最初は何が起こっているか分からなくなり、今までに感じたことのないたくさんの感情があふれて、自分を見失いそうにもなりました。しかし、クラスや部活動の仲間、担任の平間先生、顧問の松尾先生を始め、たくさんの方々に支えていただき、何とか前を向くことができるようになりました。自分を生かす勇気をいただけたことに感謝し、その恩返しのためにも、全国大会出場を目指し、これからも努力を重ねていきたいと思っています。

私の本棚

NATIONAL GEOGRAPHIC (日本版)

郡山女子大学短期大学部 講師 山上 裕子

通常このようなコーナーでは単行本が恒例であるが、ここに紹介する月刊雑誌は、現在「私の本棚」に欠かさないアイテムとなっている。二十歳を過ぎた頃からだろうか。アルバイトで費用をため、しばしば旅に出た。片手には「青春18きっぷ」を、

姜尚中氏の言葉。「私は、生きることは、不確実性を抱きしめることだと思っています。人生が不確実だと言うことは、回答はないということ。正解を探し求めても意味がない。自分で精一杯に悩んで、自分で決断していくしかないのです。」

生活診断室 シリーズ⑤ 不確実性を抱きしめる 郡山女子大学 准教授 石田 智宏

東日本大震災後の混沌は、一方で私に精神的な深まりをもたらしてくれた。一般に、不確実性とはリスクであり、リスクを回避しようとするのが現代人にとっては常識だ。経済学の教科書でもリスク回避的な行動の合理性が説かれている。しかし、他方で親鸞などの仏教者・思想家が喝破したのは、不確実性こそが人生だという点である。

学生たちとも一緒に。 「環境に動かされない、どのような環境が来てもその環境から自分の心を守る。善い環境にも応じ、悪い環境にも応じて心境が動かない。」 我量深。

そして若い女性の一人旅にありがちな危険を回避するため肩には一眼レフを掛け、夜明け前に家を出ては各地をまわった。富士五湖、松本、小諸、房総、会津、角館、弘前、そして奈良。 そんな青春時代を通過したせい、最近無性に未知の世界を身近においておきたい衝動にかられる。それも到底この先、訪れる可能性が限りなく低いであろう世界である。 『NATIONAL GEOGRAPHIC』は、それをささやかながらかなえてくれる。

ペーページをめくると中からそのようなメッセージが流れ出てくる。年齢を重ね二十歳の頃には及ばないが、わくわくする気持ちは未だ健在なようである。

ようこそ 郡山開成学園へ 新任教職員の方々のご紹介

郡山女子大学

(四月一日付)

〔新採用〕
渡邊 英勝 講師
武蔵野大学通信教育部人
間関係学科心理学専攻
所属 大学人間生活学科

泉 秀生 講師
早稲田大学大学院人間科
学研究所人間科学専攻博
士課程修了
所属 大学人間生活学科

〔本採用〕
先崎 和子 講師
郡山女子大学短期大学部
家政科食物栄養専攻卒
所属 大学食物栄養学科

富本 栄次 講師
日本体育大学体育学部体
育学科卒(平成二十二年
度から期限付事務職員)
所属 大学食物栄養学科

中村 真智子 助手(学務担当)
郡山女子大学家政学部食
物栄養学科卒(平成十九
年度から期限付助手)
所属 大学食物栄養学科

横田 和子 助手(学務担当)
郡山女子大学大学院人間
生活学研究所人間生活学
専攻修士課程修了(平成二
十年度から期限付助手)
所属 大学食物栄養学科

〔新採用〕
磯部 哲夫 講師
東京芸術大学大学院音楽
研究科修士課程声楽専攻
修了
所属 短大音楽科

〔本採用〕
西勝 ようこ 教諭
福島大学大学院教育学研
究科学校臨床心理専攻臨
床心理領域修士課程修了
(平成二十一年度から期限
付講師)
所属 附属高校家庭科

〔本採用〕
横田 尚美 教諭
郡山女子大学短期大学部
幼児教育学科卒(平成二十
年度から期限付職員)
所属 幼稚園

〔新採用〕
菅野 英樹 職員
成蹊大学経済学部卒 前
(株)福島博報堂宇都宮オ
フィス長
所属 入学事務局

〔本採用〕
遠藤 恵 助手(学務担当)
郡山女子大学家政学部人
間生活学科卒
所属 大学人間生活学科

南川 肇 講師
東京芸術大学音楽学部器
楽科卒
所属 短大音楽科

小林 みゆき 助手(学務担当)
郡山女子大学短期大学部
幼児教育学科卒
所属 短大幼児教育学科

横尾 花恵 講師
宮城学院女子大学学芸学
部英文学科編入学
所属 附属高校英語

大島 憲慎 講師
帝京大学理工学部バイオ
サイエンス学科卒
所属 附属高校理科

本多 直子 職員
郡山女子大学家政学部人
間生活学科卒
所属 就職部

〔本採用〕
菅野 英樹 職員
成蹊大学経済学部卒 前
(株)福島博報堂宇都宮オ
フィス長
所属 入学事務局

■昇任
▲大学/教授 山形敏明(准教授)・
教授 山本裕詞(准教授)・講師 阿部
恵利子(助教)▲短大/教授 阿部
寛太郎(准教授)・教授 齋藤
美保子(准教授)・准教授 阿部俊
夫(講師)・講師 金子依里香(助
教)・助教 阿部優子(助手)・助教 鈴
木奈津子(助手)・助教 石川雅子
(助手)▲幼稚園/副園長 賀門康
博(主事)・主事 奥美代(教諭)▲事
務局/総務部総務課長 加瀬洋
(課長補佐)附属高校事務室主任 村
田菜織

■平成二十三年度で退職された方々
「第一定年」▲大学/庄司 一郎教授
▲短大/真船均教授 岡部富士夫教
授 熊田みちよ准教授▲事務局/江
田君代「第二定年」▲大学/藤本健
四郎教授・平出美穂子准教授▲短大
/奥秋和夫准教授 滝田良子准教授
/依願退職)▲短大/齋藤智志教授
▲幼稚園/熊田智子教諭▲大学/
平野由加里助手「期限付期間満了
退職」▲大学/鈴木利治教授 三瓶
タミ子准教授▲短大/金子泰三教
授 中川英子准教授・陣野原はるか
助手▲高校/天野春香講師・小藤裕
樹講師▲幼稚園/遠藤良子副園長・
伊藤吉子▲事務局/今泉勝雄 増子
幸吉・伊藤和雄(三月三十一日)

■平成二十四年度に再雇用された方々
▲大学/藤本健四郎教授・庄司 一郎
教授▲短大/岡部富士夫教授 奥秋
和夫准教授 滝田良子准教授 熊田
みちよ准教授

■所属変更
▲大学/人間生活学科講師 富本 栄
次(就職部)▲短大/幼児教育学科
教授 村田清(大学:人間生活学科)
▲事務局/企画室次長 藤井陽光(教
務部次長)・総務部 阿部真澄(企画
室)・図書館 本田光生(高校)

NEWS 学園ニュース

【表彰】
平成二十四年度
福島県私立中学校高等学校協会
教育功労永年勤続教職員表彰
▲勤続25年
伊藤清和(附属高校進学指導部長)
加瀬洋(郡山開成学園総務課長)
郡山市地域包括支援センター
運営協議会会長に
短大 村田清教授が就任

**夏期技術講習会
日程決まる**
夏休み恒例の本短大・生活芸術科
の実技体験講習会は七月二十七日
(金)～二十九日(日)の三日間と決
まった。また、音楽科の受験生を対
象とした講習会は八月六日(月)～
八日(水)までの三日間開催される。
両学科とも定員制なので申し込み
は早めにどうぞ。

**福島県定書・学校版で
附属高校が最優秀賞受賞**
地球温暖化対策について県内の学
校や事業者が知事と協定を結ぶ「福
島議定書」で、附属高校が高校部門
最優秀賞を受賞した。平成二十三
年度の学校部門の締結団体は六百
四校。附属高校では「省エネルギー
テッカー」で全校に省エネルギー対
策を啓発。また、ゴミの削減、分別ボ
ックスを設置しているほか、生ゴミを堆
肥化して花壇などで有効利用してい
る事等が評価されたもの。

**マーチング&バンドステージ
優秀賞・講師者特別賞に輝く**
第十一回マーチング&バンドステ
ージの全国大会が横浜市の神奈川県
民ホールで二月十八日、十九日の両
日開かれた。日本マーチングバンド
トントワリング協会の主催。二年連
続三回目出場の本校は「シルクド
ソレイユ」の「ジャーニー・オブ・マン」か
ら三曲を演奏し、二年連続で優秀
賞・講師者特別賞に輝いた。顧問の
平山雅浩教諭は「観客の反応や励ま
しの拍手で頑張れた。練習不足の中
部員と一緒ステージに立てて嬉しか
った」と話した。

**インスタントラーメン・
オリジナル料理コンテストで
三位入賞**
日本即席食品工業協会主催の、大
学・短大専門学校・高校で、栄養士・
調理士を目指す学生を対象にした、
「第十四インスタントラーメンオリジ
ナル料理コンテスト2012」で附
属高校の豊島みきさんの「あんかけ
と茶碗蒸し2Cookingマジック」
が三位の日本即席食品工業協会
長賞を受賞した。コンテストには全
国から千二百三十三名の応募があっ
た。豊島さんは、十二人が通過でき
る書類審査を突破、二月二十六日に
東京で行われた決勝大会で調理し、
見事三位に輝いた。

**小野中が七回目の優勝
高校長杯バレーボール大会で**
第二十三回郡山女子大附属高等

**第十五回
県弓道遠的選手権大会
高校の部 二位**
吉田 優美(食物科二年)

**第六十六回
全国高等学校弁論大会で
奨励賞を受賞**
大会は五月三日、名古屋市中で開催
され、全国から書類審査を通過した
十六人が出場した。附属高校音楽
科三年の永崎望未さんが「生きて行
く」をテーマに弁論し、「東海高校弁
論部OB会奨励賞」を受けた。

計報
若松 紀志子 先生
元郡山女子大学短期大学部教授。
四月二十三日死去。九十五歳。
ご冥福をお祈り申し上げます。

学校長杯バレーボール大会が三月四
日(日)に行われた。県中地区を中心
に十二チームが参加。四ブロックで予
選リーグを行い、各ブロックの一位チ
ームが決勝トーナメントに進出、小
野中が七度目の優勝を飾った。
結果は次の通り。

優勝 小野中
準優勝 白河中央中
三位 郡山二中
安積中

**音楽アンサンブルコンテスト
優良賞に輝く**
「被災地に元気を、福島から勇気
を！」を合言葉に「第五回音楽アン
サンブルコンテスト全国大会」が三月
二十二日から二十五日まで、福島市
音楽堂で二年ぶりに開催された。
大会には附属高校からA(小松唯
副部長)B(板谷舞香部長)の二団体
が出場し、美しい歌声を会場いっぱ
いに響かせ、優良賞に輝いた。

**第十五回
県弓道遠的選手権大会
高校の部 二位**
吉田 優美(食物科二年)

**第六十六回
全国高等学校弁論大会で
奨励賞を受賞**
大会は五月三日、名古屋市中で開催
され、全国から書類審査を通過した
十六人が出場した。附属高校音楽
科三年の永崎望未さんが「生きて行
く」をテーマに弁論し、「東海高校弁
論部OB会奨励賞」を受けた。

計報
若松 紀志子 先生
元郡山女子大学短期大学部教授。
四月二十三日死去。九十五歳。
ご冥福をお祈り申し上げます。

ベルギーを訪ねて

郡山女子大学短期大学部 准教授 奥秋 和夫

全世界に組織を持つ「フレンドシップ・フオース」という国際交流団体の团长として、ベルギーに行ってきました。ベルギーは日本の十分の一の面積という小さな国ですが、EU(欧州連合)の本部が置かれたヨーロッパ経済の中心地です。

首都ブリュッセルをはじめ、アントワープ、リージュ、アントワープなど主要都市を訪れましたが、どこも世界遺産に登録された中世以来のレンガ造りの建物が多く、運河や石畳の道と相まって、まさに「石の文化」そのものの雰囲気漂わせていました。



水の都・ブルーージュ
運河や石畳の道と相まって、まさに「石の文化」そのものの雰囲気漂わせていました。



ピエット・ヴィンシュ市長と握手する短大・奥秋准教授

またブリュッセルに近い「デンデルモネデ市」を公式訪問し、ピエット・ヴィンシュ市長と会見しました。市長からは歓迎の言葉とともに、福島地震や原発事故に関するお見舞いと励ましの言葉をいただき、ホームステイをしたホストファミリーの心のこもったもてなしとともに、ベルギーの人たちの温かい心にも触れて思い出深い交流となりました。

全日本高校バレー 強豪に善戦

第六十四回全日本バレーボール高等学校選手権大会は、一月五日から東京体育館で開かれた。本校は四年連続十五回目の出場。

一回戦で大阪第二代表で、過去三回優勝経験のある強豪、大阪国際滝井高校と対戦した。本校は立ち上り、大阪国際滝井



第2セット、相手のスパイクに2枚ブロックを試みる田島選手1と高橋選手3

高校の強烈なスパイクに圧倒され、持ち味の「拾ってつなぐバレー」を發揮できず、十点差をつけられた。第二セットも序盤の失点を懸命に追いつけたが21-25で失った。選手たちは「相手の高さに対応できなかった」と悔しさに涙を浮かべ、来年度のリベンジを誓った。会場には関口修学校長、バレー部の保護者会とマーチングバンド部、チアリーダーなど二百人の応援団が懸命の声援を送った。

生涯学習講座受講生がチャリティー展の売上金を寄付

本学の生涯学習講座「油彩1」の受講生十二人による作品発表会が二月二十九日から三月五日まで、郡山市朝日二丁目のアトリエ「かしわ」で開催された。受講生と短大・生活芸術科の浅野章教授の作品二十二点が展示され、多くの市民が訪れて作品に見入っていた。

同時に開催されたチャリティー展の売上金七万円を、受講生代表の大河原さよ子さんと西坂美重さんが三月十六日に学園を訪れ、「学園の震災復興に役立ててください」と山田副学長に手渡した。



売上金を手渡す代表の大河原さよ子さん(左)西坂美重さん(右)

夏制服 爽やかに!

六月一日の衣替えで、附属高校の制服が夏服に変わった。今年度から一新された夏制服は、薄いブルーのボタングラウンブラウスに、グレー地にピンクブルー黒ライン入りのボックスプリーツスカート、ベージュのベストと、清楚で機能的なデザイン。



夏制服に身を包み笑顔の生徒たち

アクアマリンふくしまへ、春の親子遠足 附属幼稚園

今年の春の親子遠足では、いわき市のアクアマリンふくしまに全学年一緒に出かけた。当日は朝から晴れわたり、絶好の遠足日和!到着してバスから降りた瞬間、青空と潮の香りに包まれてお子さん達もウキウキした気持ちになったようだった。アクアマリンに入ると、まずは色々な金魚がお出迎え。小さなメダカから、大きなアザラシまで、海や川の生き物を見て、触れての感動は、友だちや保護者と一緒だったことで、より大きなものになったようだ。おいしいお昼の後は、蛇の目ビーチやビオトープでのびのびとした時間を過ごすこともできた。自然に触れる機会が減っている今、お子さん達は心と体いっばいに自然を感じ取れた遠足だった。



ホームページリニューアル!

大学ホームページが五月十五日にリニューアルしました。大学の最新情報をブログやフェイスブック、ツイッターなどを通してお届けします。ツイッターでは台風による臨時休校などの緊急連絡情報も配信を予定しています。是非ご利用ください。



http://www.koriyama-kgc.ac.jp/

本学所蔵 紙上美術展 67

第五十七回 卒園記念絵屏風

附属幼稚園



やなぎ組 「ぼくたちとわたしたちのようちえん」



まつ組 「ようちえんのわくわくランド」

この春、附属幼稚園を巣立った四十一名の園児が例年継続の卒園記念として残した絵屏風。

お泊り保育、遠足やプール遊び、お弁当屋さん、こっこ、雪の中、みんなであつたかまくら。けんかしたり、仲直りしたり、たくさんのお思い出を一つひとつに描いた作品である。

木もれ陽

東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所の事故から一年が経過した。あれほど安全だと言われた原発の「安全神話」は脆くも崩れ、私たちは目に見えない放射性物質との共存生活を余儀なくされている。神話と言ふ言葉は色々な所で使われて来ているが、今回の原発事故の安全神話と言ふ言葉を思い浮かべていたら、なぜか昨年十月に亡くなった北杜夫氏の小説の書き出し部分の頭によみがえってきた。「人はなぜ追憶を語るのだろうか。どの民族にも神話があるように、ど

の個人にも心の神話があるものだ。その神話は次第にうすれ、やがて時間の深みのなかに姿を失うように見える。だが、あのおぼろげな昔に人の心にしるべきこと、爪跡を残していった事柄を、人は知らず知らず、くる年もくる年も反芻をしつづけているものらしい。そんな所作は死ぬまでいつまでも続いてゆくことだろう。…以下略」
東日本大震災と原発事故の記憶は時間の経過とともに薄れてゆくが、人生は記憶と忘却の繰り返しであり、まさに北杜夫氏の書き出し文そのものなのかも知れない。今年の新たな記憶が心に残るすばらしいものになることを祈りたい。(勝)